

# 新潟で人と環境にやさしい交通全国大会

**寄稿**

この大会の準備・運営に第一回から関わってきた者として、さまざまな立場で交通に関わる本紙記者に、その歴史や舞台裏の一端を紹介する。

◆

この大会は今回で第6回となる。そのほかに市民フォーラムが2回開催された。市民、学識経験者、行政、企業関係者など多様な立場の人々が一堂に集い、交通に関する意見や情報を交換する場となっている。毎回、地元や全国から数百人の参加者が集まり、また論議(論文)集には数十



も投稿がある。懇親会も盛況で、毎回100人前後で行ってきた。大会は、研究会が満員となり、熱い議論が交わされ、また新たな出会いが生まれている。第一回の宇都宮では懇親会の参加希望者があふれ、地元の方々が参加できなかった。準備・運営は、交通の改善を目指す地元市民団体や大学と、首都圏在住者を中心としたメンバー約30人からなる「交通まちづくり

は、人と環境にやさしい交通をめざして」とい交通に関する各地の後、市民の立場で人と環境を話し合ってきた。大会は、研究会が満員となり、熱い議論が交わされ、また新たな出会いが生まれている。第一回の宇都宮では懇親会の参加希望者があふれ、地元の方々が参加できなかった。準備・運営は、交通の改善を目指す地元市民団体や大学と、首都圏在住者を中心としたメンバー約30人からなる「交通まちづくり

も投稿がある。懇親会も盛況で、毎回100人前後で行ってきた。大会は、研究会が満員となり、熱い議論が交わされ、また新たな出会いが生まれている。第一回の宇都宮では懇親会の参加希望者があふれ、地元の方々が参加できなかった。準備・運営は、交通の改善を目指す地元市民団体や大学と、首都圏在住者を中心としたメンバー約30人からなる「交通まちづくり

は、人と環境にやさしい交通をめざして」とい交通に関する各地の後、市民の立場で人と環境を話し合ってきた。大会は、研究会が満員となり、熱い議論が交わされ、また新たな出会いが生まれている。第一回の宇都宮では懇親会の参加希望者があふれ、地元の方々が参加できなかった。準備・運営は、交通の改善を目指す地元市民団体や大学と、首都圏在住者を中心としたメンバー約30人からなる「交通まちづくり

も投稿がある。懇親会も盛況で、毎回100人前後で行ってきた。大会は、研究会が満員となり、熱い議論が交わされ、また新たな出会いが生まれている。第一回の宇都宮では懇親会の参加希望者があふれ、地元の方々が参加できなかった。準備・運営は、交通の改善を目指す地元市民団体や大学と、首都圏在住者を中心としたメンバー約30人からなる「交通まちづくり

は、人と環境にやさしい交通をめざして」とい交通に関する各地の後、市民の立場で人と環境を話し合ってきた。大会は、研究会が満員となり、熱い議論が交わされ、また新たな出会いが生まれている。第一回の宇都宮では懇親会の参加希望者があふれ、地元の方々が参加できなかった。準備・運営は、交通の改善を目指す地元市民団体や大学と、首都圏在住者を中心としたメンバー約30人からなる「交通まちづくり

も投稿がある。懇親会も盛況で、毎回100人前後で行ってきた。大会は、研究会が満員となり、熱い議論が交わされ、また新たな出会いが生まれている。第一回の宇都宮では懇親会の参加希望者があふれ、地元の方々が参加できなかった。準備・運営は、交通の改善を目指す地元市民団体や大学と、首都圏在住者を中心としたメンバー約30人からなる「交通まちづくり

は、人と環境にやさしい交通をめざして」とい交通に関する各地の後、市民の立場で人と環境を話し合ってきた。大会は、研究会が満員となり、熱い議論が交わされ、また新たな出会いが生まれている。第一回の宇都宮では懇親会の参加希望者があふれ、地元の方々が参加できなかった。準備・運営は、交通の改善を目指す地元市民団体や大学と、首都圏在住者を中心としたメンバー約30人からなる「交通まちづくり

も投稿がある。懇親会も盛況で、毎回100人前後で行ってきた。大会は、研究会が満員となり、熱い議論が交わされ、また新たな出会いが生まれている。第一回の宇都宮では懇親会の参加希望者があふれ、地元の方々が参加できなかった。準備・運営は、交通の改善を目指す地元市民団体や大学と、首都圏在住者を中心としたメンバー約30人からなる「交通まちづくり



## 新潟市が第一歩



新潟市の交通まちづくりの第一歩は「健康(けいせき)の健康づくり」(「健康づくり」)と、人々の健康づくりを、新潟市内の三条、見附、大が日々の生活に生きがいを感じ、安心して豊かな生活を送る」の狙いが込められる。英語で健康を表す「ヘルス」は、「生活全体を積極的・創造的なものとして、健康を維持・増進する活動」の意味を持つが、それを日本語に置き換えたのが「健康づくり」である。そして健康づくりの具体策が「外出しやすく、歩きたくなるまちづくり」で、交通は重要な役割を受け持つ。

## BRT14年度末運行開始めざす

交通まちづくりは、①地域の生活交通強化②都心コアの充実③都心部の移動円滑化④が3本柱。生活交通強化ではバス路線を充実させ、鉄道沿線のアクセスを確保する。都心コアはセブは鉄道の利便性向上が中心で、マイカーから鉄道に乗り換えて都心部に向かうパーク&ライドも推進する。市内中心部の移動円滑化は、JR新潟駅や繁華の街の古町、新潟市役所、市民病院などをループ状に結ぶ基幹バス「のりーとリン」の運行、新潟駅と古町間のBRTも視野に、準備を進めている。

## 本格的な交通まちづくりへ

地域にふさわしい交通の在り方を専門家と行政、交通事業者、地域の団体、一般市民などがともに考える「人と環境にやさしい交通をめざす全国大会in新潟」が3月16、17日に新潟市内で開催され、新潟県外も含め約250人を超す参加者を集めた。人口81万人、日本海側唯一の政令指定都市の新潟は都市間の広域交通をJR上越新幹線や北陸・日本海東北自動車道が受け持ち、市内の公共交通もJR信越、越後、白新の各線や路線バス網で比較的便利だが、市民の日常的な移動手段の7割は自動車(マイカー)で、都心部の空洞化が進んだり、自動車を運転しない高齢者が買い物や病院への通院に困るといった問題点が表面化している。全国大会は、LRT(次世代型路面電車)やBRT(バス高速輸送システム)などの新しい手段も含めて紹介し、交通のことを市民それぞれに考えてもらおうのが目的だ。大会での発表内容から、地方都市のモデルとして新潟市の交通を考えると、初回から大会を支えてきた交通コンサルタント企業・ライトレールの阿部等社長に交通まちづくりの近況を寄稿してもらった。(上里 夏生記者)



大会は地元で活動する「新潟の公共交通交通をつくる市民の会」などを中心とする実行委員会が主催し、国土交通省と新潟県、新潟市、新潟商工会議所、JR東日本新潟支社、新潟交通などが後援した。関西大学経済学部の宇都宮純人教授がコーディネーターを務めたパネルディスカッションでは、交通先進都市の京都、金沢、富山3市がそれぞれの施策を紹介した。

## 基調講演

基調講演者は都市計画に詳しい京都大学大学院工学研究科の土井勉特定教授。「人々を元気にする交通政策とまちづくりの戦略」のタイトルで、大要次の通り語った。現在、多くの都市で公共交通は「負のスパイラル」に陥っている。負のスパイラルとは、公共交通利用者の減少が運転本数削減など輸送サービスの低下を招き、やがては路線そのものが廃止されること。現在の公共交通は評価指標が赤字か黒字かの業績しかなく、交通があることで地域が便利になるといった存在自体は評価されない。現代の都市は、移動手段がなくなると買い物などがたちまち不便になり、人々が孤独に陥る。交通は利用が目的でなくあくまで手段のはずで、健康や交流にプラスの効果を与える機能を考えれば、鉄道やバスに自治体が支援する根拠ともなるはずだ。

## 基調講演者



大会2日目は、気動車やLRTV(ライト・レール・ビークル=超低床路面電車)を製造する新潟トランスの工場やJR新潟駅周辺で進む連続立体交差事業を視察

## 過度の自動車依存を反省

バス路線の廃止や減便が相次いでいる。こうした過度の自動車依存を反省した新潟市は、公共交通や自転車、徒歩で快適に移動できるまちづくりに向けた基本条例を制定し、本格的な交通まちづくりへの第一歩を踏み出した。LRTも視野に、準備を進めている。

新潟市は新しい交通手段としてLRT、BRT、モノレールなどを比較検討した。鉄軌道系の交通機関は多額の整備費が必要となることから早期開業は難しいと判断。部外有識者による検討委員会は2011年5月、LRTなどを将来構想に残した上で、当面はBRTを整備すべきとの提言を公表した。市も2014年度末からBRT運行を開始する方針を決定し、現在、準備を進めている。

## ライトレール社長 阿部 等

及もなかなか進まない。交通の改善を望む多くの者が、人と環境にやさしい交通を実現する一助となる。関係者一同、得る場として活用願いたい。

人と環境にやさしい交通をめざす全国大会

回	開催地	開催日	参加者数	投稿数
1	宇都宮	2005年6月25日	450	75
2	京都	2007年9月22日	480	63
3	横浜	2008年12月6日	510	84
4	東京	2009年12月5日	580	79
5	岡山	2010年11月27日	600	51
6	新潟	2013年3月16日	250	57

人と環境にやさしい交通をめざす市民フォーラム

開催地	開催日	参加者数	投稿数
東京	2010年9月4日	200	なし
水戸	2012年2月11日	300	55

◆あべひとし 1961年(昭和36年)生まれ、東京大学大学院工学系研究科修士修了。2005年(平成17年)にライトレールを設立。国内外の公共交通活性化や鉄道に関する調査業務を多数受託。日本大学交通システム工学科の非常勤講師や工学院大学オーブンカレッジの鉄道講座の講師も務める。著書に「満員電車がなくなる日」(角川S.S.C.新書)。

別冊 旅の手帖 仙台・宮城デスティネーションキャンペーン 2013年4~6月開催!

# 仙台・宮城

好評発売中

宮城の花めぐり旅

- \*ローカル線に乗って東へ西へ
- \*海の幸! 山の幸! 湯の国 宮城
- \*井!? 宮城グルメ紀行
- \*伊達のお殿様ゆかりの地めぐり
- \*今こそ三陸へ
- \*もう一度松島
- \*仙台ブラブラまちあるき
- \*城下町 白石と真田の郷 蔵王
- \*レトロ登米の街歩き
- \*芭蕉の足跡を訪ねて
- \*蔵王山麓を満喫
- \*栗駒山麓を遊び尽くす

ほかにイベント情報など掲載

●お求めは 書店または 交通新聞社

TEL03-5216-3217(平日9:30~18:00) FAX03-5216-3219  
〒102-0083 東京都千代田区麹町6-6 麹町東急ビル  
交通新聞社オンラインショップ http://shop.kotsu.co.jp/

JRマンのためのJRマンの情報誌

# gazette

発行 毎月1日 B5判80頁

定期購読: 購入のお問い合わせ お申し込みは (株)交通新聞社 販売部

〒102-0083 東京都千代田区麹町6-6 麹町東急ビル3F  
TEL 03-5216-816 TEL 03(5216)3217 JR 051-5109  
FAX 0120-456-484 FAX 03(5216)3219